

人材派遣業から見た 情報セキュリティ人材に関する市場動向

－大手人材派遣会社に対するヒアリング結果の概要－

平成18年8月30日
内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)

1. ヒアリングの概要

➤ 実施対象

- 4大手人材派遣会社グループ

➤ 期間

- 平成18年7月から8月

➤ 方式

- 文書による回答、担当者からの対面聴取のいずれか若しくは両者
(会社としての考えではなく、担当者の率直な考えをいただいた。)

➤ ヒアリング事項

- 情報セキュリティ人材(及び高度IT人材。以下同じ)に対する顧客企業のニーズの現状と課題
- 情報セキュリティ人材として派遣される社員の現状と課題
- 市場全体としての情報セキュリティ人材の需給バランスの現状と評価
- 情報セキュリティ人材の育成に関する制度(官民の各種資格制度、教育制度等)に対する評価・要望

等

2. ヒアリング結果(1)

➤ ヒアリング事項

➤ 情報セキュリティ人材(及び高度IT人材。以下同じ)に対する顧客企業のニーズの現状と課題

➤ 主な回答(意味の明確化等のため実際の回答に適宜修正を加えている。)

- 年齢・性別の傾向はない。
- 実務経験のニーズが高く、資格のニーズは非常に少ない。
- ベンダー資格(シスコCCNP、マイクロソフトMCP等)が有効なこともある。
- 顧客企業の要求レベルが総じて高く、派遣できる人材のレベルとの間に差がある。
- 人材に対するニーズのうちセキュリティ分野のものとしては、ファイアーウォールの構築やセキュリティポリシーの策定などの実務経験について聞かれることが多い。
- 顧客企業が携わらせたい業務の分野と、派遣される人材が経験している業務の分野との適合度が重視される。

2. ヒアリング結果(2)

➤ ヒアリング事項

➤ 情報セキュリティ人材として派遣される社員の現状と課題

➤ 主な回答 (意味の明確化等のため実際の回答に適宜修正を加えている。)

- 実務経験が重要であり、資格はそれを補うものであるとの認識が強い。
- セキュリティに関しては、開発系ではなく、サポートに近いエンジニアが多い。
- 高度なスキルや経験を有するセキュリティエンジニアは大変少なく、市場のニーズも高い。
- 顧客企業は、信用等の問題が大きいいため、セキュリティ関連業務の要職に参画させるような高度なセキュリティ人材を派遣で利用しようとならないのではないかと。
- 情報保護のための指導や教育を派遣社員に対して行うことが必要。
- セキュリティ人材には人間的な素養も重要。

2. ヒアリング結果(3)

➤ ヒアリング事項

- 市場全体としての情報セキュリティ人材の需給バランスの現状と課題

➤ 主な回答(意味の明確化等のため実際の回答に適宜修正を加えている。)

- 情報セキュリティも含めたIT分野全体として全体的に人材の不足感がある。
- 特に、高いスキルを持つ人材が不足している。
- まずは、ネットワーク系の基本スキルを有するエンジニアが重視され、そこにセキュリティが加わってくるという形になっている。特に上流工程の業務経験が豊富なエンジニアが必要とされている。
- 好景気のため、ネットワーク・サーバ系の人材は正社員として採用されており、市場全体として流動性が少ない。

2. ヒアリング結果(4)

➤ ヒアリング事項

- 情報セキュリティ人材の育成に関する制度(官民の各種資格制度、教育制度等)に対する評価要望等

➤ 主な回答(意味の明確化等のため実際の回答に適宜修正を加えている。)

- 資格は知識があることを保証するものであって、業務ができることを保証するものではない。
- 現存の国家資格(セキュリティアドミニストレータ・テクニカルエンジニア(セキュリティ))よりもレベルの低い初・中級者向けの国家資格が欲しい。
- 経験者がよりブラッシュアップできるような資格制度があると良い。
- セキュリティ・エンジニアの人材像の明確化・体系化が必要。
- 人材派遣会社が未経験者の人材育成を行うことに対する政策的支援があれば、より多くの人材派遣会社が未経験者の人材育成を行うようになると思う。

2. ヒアリング結果(5)

➤ ヒアリング事項

➤ その他要望等

➤ 主な回答(意味の明確化等のため実際の回答に適宜修正を加えている。)

- セキュリティに関しては、実務経験が必須であるため、未経験者の参入余地(未経験者が実務を経験することができるような機会)を提供するような取組みが必要。
- セキュリティ関連の基礎的な教育をITエンジニア教育の中で推進することが必要。